

シグマ委員会会合から

以下に示すのは、シグマ委員会会合の議事録です。メーリングリスト JNDCmail でも議事録が配布されます。また、核データセンターの WWW から、シグマ委員会の会合予定や議事録を見ることができます。

シグマ特別専門委員会・ シグマ研究委員会本委員会

2000年7月13日(木) 13:30~17:30
日本原子力研究所 本部 第1会議室
出席者 28名

配付資料

1. 平成 11 年度シグマ特別専門委員会・シグマ研究委員会本委員会議事録
2. シグマ委員会 運営委員会議事概要
3. 日本原子力学会「核データ・炉物理特別会合」テーマ
4. 日本原子力学会核データ部会の発足
5. 委員の交代
6. 大学における核データ活動
7. JCPRG 1999 年活動報告
8. 平成 11 年度における原研の核データ測定実験
9. サイクル機構における核データ研究活動
10. 短寿命核生成放射化断面積の系統的測定
11. 核分裂中性子スペクトルの評価
12. 核データ専門部会の平成 11 年度活動報告と 12 年度の予定
13. 炉定数専門部会の平成 11 年度活動報告と 12 年度計画
14. 核燃料サイクル専門部会平成 11 年度活動報告及び平成 12 年度計画
15. 常置グループ活動報告
16. 1999 年核データ研究会
17. 2000 年核データ研究会の開催について
18. 核データ関連国際情勢
19. 科学と技術のための核データ国際会議 ND2001 準備状況

主査及び委員長挨拶

議事の前に、シグマ特別専門委員会の吉田主査とシグマ研究委員会の中川委員長より挨拶があった。

議事

1. 報告事項

1.1 運営委員会報告

配付資料 2 に基づき、昨年の本委員会後に開催された 4 回の運営委員会の議事概要を報告した。

1.2 原子力学会関係

- 配付資料 3 に基づき、日本原子力学会 1999 年秋の大会、2000 年春の年会、2000 年秋の

大会の「核データ・炉物理特別会合」のテーマについて報告した。

- 配付資料 4 に基づき、原子力学会「核データ部会」が発足したことについて報告した。「部会設立は、セクショナリズムの恐れがある」との意見が出て、学会の動きについて意見交換がなされた。

2. シグマ委員会人事

2.1 委員の交代

本委員の交代について、報告があった。

退任

中嶋 龍三	法政大学
川村 孝弼	核融合科学研究所
神田 幸則	大分高等専門学校
天道 芳彦	理化学研究所

新任

金井 達朗	放射線医学総合研究所
久保野 茂	東京大学
谷畑 勇夫	理化学研究所
難波 忠清	核融合科学研究所
片倉 純一	日本原子力研究所

2.2 主査改選

主査の改選が行われ、委員の互選の結果、吉田正氏(武蔵工大)が再任された。

3. 国内研究機関の核データ活動

3.1 大学関係

配付資料 6 に基づき、馬場氏が大学における核データ活動について、2000 年の Progress Report、1999 年核データ研究会報文集、原子力学会予稿集を参考に報告した。東北大、東工大、都立大、名大、阪大、京大、九大において実験・測定が行われている。北大、東北大、早大、武蔵工大、名大、愛知淑徳大、阪大、近大、京大、九大において計算や評価が行われている。

3.2 日本荷電粒子核反応データグループ

配付資料 7 に基づき、加藤氏が JCPRG (日本荷電粒子核反応データグループ) の 1999 年度の活動を報告した。NRDF に 14 編の論文から 1.20 メガバイト (457 データテーブル) のデータを入力した。この結果、検索対象データの文献数は 1,147 論文となった。NRDF から EXFOR へ変換し、IAEA に送付した。8 件については問題があったため再変換して送付した。NRDF の利用について

Intelligent Pad システムを用いた利用システム (CONTIP) に関し論文を発表した。2000 年度には、新規データの入力、NRDF データのワークステーションへの移行、CONTIP の改良、新 EXFOR 変換システムの作成を行う予定である。

3.3 原研

配付資料 8 に基づき、池田氏が原研で実施している核データ測定実験について報告した。FNS での水銀の各種断面積の測定や積分実験、AGS での水銀ターゲットの中性子工学実験、核融合炉材料積分実験、誘導放射能実験、14 MeV 中性子による $^{18}\text{O}(n,p)^{18}\text{N}$ 、 $^{18}\text{O}(n,\alpha)^{15}\text{C}$ 反応断面積測定、1.5 GeV 陽子入射に伴う厚いタングステン及び鉄ターゲットから生成する中性子スペクトルの測定、核破砕中性子源の中性子ビームライン孔での遮蔽実験、 ^{237}Np 、 ^{241}Am 、 ^{243}Am 及び ^{248}Cm の 30 MeV 陽子励起核分裂収率の測定が行われていると報告した。

3.4 サイクル機構における核データ研究活動

配付資料 9 に基づき、石川氏がサイクル機構における核データ研究活動について報告した。東海では FP 核種の中性子断面積の測定を実施している。また、光核反応全断面積の超高分解能測定技術の開発も行っている。大洗では大学に委託して MA・FP 断面積の測定を行っているほか、弥生炉を用いた MA 崩壊熱の測定、常陽の反応率測定結果を用いた積分テスト、高速炉炉心の遮蔽解析のための定数作成、高速炉用の統合炉定数の作成を行っている。

3.5 その他

韓国釜山大学の李氏より韓国における核データ活動について紹介された。

4. 特別講演

4.1 短寿命核種生成放射化断面積の系統的測定

名大河出氏が短寿命核種生成放射化断面積の系統的測定について講演した (配付資料 10)。中性子エネルギー 13.4~14.9 MeV 及び 3~7 MeV の短寿命核生成断面積データについて 110 反応以上のデータが取得され、これらのデータを基に 14 MeV 附近の (n,p) 及び (n,α) 反応の系統式の検討を行っている。予測精度 20~30% の系統式の提案を目指している。

4.2 核分裂中性子スペクトルの評価

近大大澤氏が核分裂中性子スペクトルの評価について講演した (配付資料 11)。核分裂中性子の Multimodal analysis を試みている。Brosa 等の Multimode Fission Model と Madland-Nix の中性子スペクトルに関する Model の改良版を結合し、解析を行った。実験との一致は改善されている。ただ、Multimodal Analysis がなされている核種にしか適用できない。今後、Multimodal model の

Systematics の研究が進めば、他の核種への適用も可能となる。

5. シグマ委員会平成 11 年度活動報告と 12 年度計画

5.1 核データ専門部会

配付資料 12 に基づき、井頭氏が以下の 7 つの WG について報告した。

- (1) 高エネルギー核データ評価 WG
- (2) 共分散評価 WG
- (3) 評価計算支援システム WG
- (4) 荷電粒子核データ WG
- (5) 遅発中性子評価 WG
- (6) 中重核評価 WG
- (7) 重核評価 WG

なお、共分散評価 WG はミッションが終了した。また、荷電粒子核データ WG 及び遅発中性子評価 WG も 12 年度をもって活動を終了する予定である。

5.2 炉定数専門部会

配付資料 13 に基づき、山野氏が以下の 5 つの WG について報告した。

- (1) リアクター積分テスト WG
- (2) Shielding 積分テスト WG
- (3) Dosimetry 積分テスト WG
- (4) 標準炉定数検討 WG
- (5) 中高エネルギー核データ積分テスト WG

なお、Dosimetry 積分テスト WG は、JENDL Dosimetry File 99 (JENDL/D-99) が完成したので、JENDL/D-99 のレポート刊行をもって一つの区切りとし、WG 活動の見直しを行う。また、中高エネルギー核データ積分テスト WG は 12 年度に編成され、現在評価作業中の JENDL High Energy File (JENDL/HE) に関して定数処理法及び積分テスト手法の確立を目指している。

5.3 核燃料サイクル専門部会

配付資料 14 に基づき、片倉氏が以下の 3 つの WG について報告した。

- (1) 崩壊熱評価 WG
- (2) 核種生成量評価 WG
- (3) 核分裂生成物収率評価 WG

5.4 常置グループ

配付資料 15 に基づき、中川氏が以下の 6 つのグループについて報告した。

- (1) ENSDF グループ
- (2) JENDL 編集グループ
- (3) CINDA グループ
- (4) 医学用原子分子・原子核データグループ
- (5) 核データニュース編集委員会
- (6) HPRC グループ

6. 1999 年核データ研究会報告と 2000 年核データ研究会計画

配付資料 16 及び 17 に基づき、山野氏が報告し

た。1999年には11月18、19日に参加者157名で開催された。外国からの参加は10名で国内滞在の外国人7名を加えると参加者の1割強が外国人となり国際色豊かになった。また、ポスター発表賞を設け好評であった。2000年には11月16、17日を予定している。口頭発表のプログラムとしてJENDL-3.3及びJENDL-HEの評価と積分テストを主眼とした構成を予定している。また、今年度もポスター発表賞を設ける予定である。

7. その他

7.1 核データ関連国際情勢

配付資料18に基づき、長谷川氏がIAEA-核反応データセンター協力諮問家会合、第23回IAEA-INDC会合、NEA WPEC核データ評価国際協力会合を基に核データを取り巻く国際情勢について報告した。データセンター活動では、日本の理研がデータセンターから撤退するという動きがあり、今後の活動に警鐘が鳴らされている。

7.2 科学と技術のための核データ国際会議 ND2001 準備状況

配付資料19に基づき、長谷川氏が報告した。会議の大枠が決定され、第1次案内は既に出してある。国内からの登録者はまだ少ないが、海外からの参加登録者は100名を超えている。今後、第2次案内の発送等を行ってゆく。

運営委員会

2000年5月11日(木) 13:30~17:30 日本原子力研究所 本部 第5会議室 出席者 14名

配付資料

1. 平成11年度第4回運営委員会議事録(案)
2. リアクター積分テストWG報告
3. Shielding積分テストWG平成11年度活動報告及び平成12年度計画(案)
4. 平成11年度活動報告及び平成12年度活動計画ドシメトリー積分テストワーキンググループ(WG)
5. 標準炉定数検討ワーキンググループ(WG)活動報告
6. 崩壊熱評価ワーキンググループ平成11年度成果と平成12年度計画
7. 核種生成量評価WG活動報告
8. 核分裂生成物収率データ評価W.G.の平成11年度活動報告及び平成12年度活動計画
9. HPRGグループ平成11、12年度活動報告・12年度活動計画
10. 原子力学会「核データ・炉物理特別会合」テーマ(案)
11. 2000年核データ研究会の開催について

議事

I. 議事録確認

1. 前回議事録確認

配付資料1の(案)誤字・脱字の修正を行った後承認された。

p2下18行目 「Tick Target」→「Thick Target」

p2下14行目 「遅発」→「遅発」

なお、議事録に書かれていた遅発中性子のndに関しては、重核評価WGと共同で誤差ファイルの検討を進めることになったことを吉田リーダーより報告があった。

II. 審議事項

1. 炉定数専門部会各WGの活動報告と12年度計画

① リアクター積分テストWG

秋江専門委員が配付資料2に基づき、高野リーダーに代わり報告した。KUCAの測定の解析、MISTRALの解析、TRACYの解析、「常陽」の解析、OECD/NEAのベンチマーク解析等を進めた。MOX燃料のMISTRALの解析では、JENDL-3.2で増倍率をやや過大評価しているが、Pu富化度の異なるTCAのMOX炉心の解析では実験との一致が良い。「常陽」の解析では、増倍率は0.5%程の過小評価、Naポイド反応度は15~30%の過大評価、燃焼係数のC/Eは約10%の範囲でばらついており、12年度にはJENDL-3.3のベンチマークを中心に活動を行い、報告書の作成、ND2001への投稿を予定している。

なお、MCNP4Cが出たことがアナウンスされ、非分離共鳴のデータの取り扱いについて議論がなされた。どこかでフォローする必要があることが認識され、リアクター積分テストWG及び標準炉定数WGで検討することとなった。

② Shielding積分テストWG

山野グループリーダーが配付資料3に基づき報告した。平成11年度は中重核データ評価WGの進捗に合わせ、テストするデータの予備検討を行うとともに、中重核データのファイル化の後積分テストを実施するためのスケジュール及びベンチマーク問題を確認した。平成12年度は、MCNP4B用pointwise断面積及びVITAMIN-J群構造による群定数を作成し、ベンチマーク解析を実施する。

③ Dosimetry積分テストWG

中川幹事が配付資料4に基づき、小林リーダーに代わり報告した。JENDL Dosimetry File 99 (JENDL/D-99)用の評価作業は一段落し、CD-ROMを作成した。現在レポートをまとめ中である。平成11年9月に大阪で開催された「第10回原子炉ドシメトリー国際シンポジウム」に当WGから論文を発表した。平成12年度はJENDL/D-99のまとめを進めるが、このレポートの刊行をもって一つの区切りとし、出直しを考えてはどうかと思っている。

④ 標準炉定数検討 WG

瑞慶覧グループリーダーが配付資料5に基づき報告した。遮蔽計算を指向した標準炉定数ライブラリーJSSTDL-3.2の報告書を作成準備中である。10月頃を目処に完成を目指している。また、今後の課題としてJENDL-3.3のフォーマット変更に伴う炉定数作成の上の問題点、炉定数作成・保守上の問題点について議論を始めた。12年度に本格的に議論する。

JENDL-3.3ベースの炉定数作成に関して、「今後、炉定数をどこで作成するか」等議論があり、WGで議論を深めるよう要請された。

2. 核燃料サイクル専門部会の活動報告と平成12年度計画

① 崩壊熱評価 WG

吉田グループリーダーが配付資料6に基づき報告した。JENDL崩壊データファイルがほぼ完成し、評価・検討を行った。サイクル機構で進められているMAの崩壊熱測定と協力し、測定結果の検討を進めた。また、FPの放出エネルギーの理論計算のパラメータ最適化を試みた。

JENDL崩壊データファイルの公開について質問があったが、「出来るだけ早くレポートを作成して公開する様にしたい」と返答があった。

② 核種生成量評価 WG

内藤グループリーダーが配付資料7に基づき報告した。平成11年度は、ORIGEN用の一群定数(BWRMOX及びPWRMOX用)をJENDL-3.2より作成した。また、一群断面積の感度評価に関する検討を開始した。平成12年度には、MOX用一群定数の報告書を作成すると共に、感度解析等を行う。

③ 核分裂生成物収率データ評価 WG

片倉グループリーダーが配付資料8に基づき報告した。平成11年度には測定データの収集、森山一大西のシステムティックスの検討、高エネルギー核分裂の検討を行うと共に、IAEA CRPへ報告した。平成12年度には測定データの収集を継続すると共に、システムティックスの検討を継続して進める。

3. 常置グループの活動報告と12年度計画

① HPRL グループ

深堀グループリーダーが配付資料9に基づき報告した。2000年版のHPRL作成のため、改訂作業を行った。また、新規要求を活性化するため原子力学会誌等への投稿を検討した。

4. 本委員について

平成12年度の本委員について、谷畑、久保野両氏に了解を貰い現在手続き中であることが中川幹事より報告された。また、専門部会の部会長も本

委員になることになっているので片倉核燃料サイクル専門部会長も本委員になることになるかと報告された承された。

5. 原子力学会秋の大会「核データ・炉物理特別会合」

中川幹事より配付資料10に基づき、原子力学会秋の大会の「核データ・炉物理特別会合」のテーマについて以下の様な案が提案された。

1. 高エネルギー評価済核データファイルの現状(渡辺、深堀)
2. 評価済核データライブラリーJENDL-3.2の改訂(柴田)
3. 反応度総和計算法と遅発中性子データへのフィードバック(親松)

また、座長についてはまだ決まっていないので推薦をお願いしたい。

テーマについては、議論の結果、2.の「JENDL-3.2の改訂」は、「JENDL-3.3の現状」でお願いした方がよいとの意見があり、「JENDL-3.3の現状」でお願いすることとした。また、座長については、佐治氏(総理府原子力安全室)、竹田氏(阪大)の順番でお願いすることとした。

6. 本委員会について

本委員会の日取り、特別講演について、議論を行い、日取りは7月13日(木)、特別講演は、核データセンターから委託している仕事について以下の件についてお願いすることとした。

1. 名大への短寿命核の測定に関する件
 2. 近大への遅発中性子に関する理論的検討の件
 3. 九大又は東北大への委託の件
- なお、本委員会では次期主査の選出を行う。

7. 2000年核データ研究会について

山野実行委員長より配付資料11に基づき説明した。本年度は、11月16日と17日の2日間を予定している。テーマは、応用面に主眼を置きたいと思っている。企画等について提案があれば6月末を目処に実行委員長までお願いしたい。

III. 報告事項

1. 原子力学会核データ部会設立について

井頭委員より原子力学会で「核データ部会」が設立され、春の年会に於いて設立総会が開催されたことが報告された。

IV. その他

1. 確認事項

- 1) 宿題事項の確認
特になし

2) 次回日程

9月28日(木)

2. その他

核データ専門部会

中重核評価WG

2001年1月12日(金) 13:30~17:00
東京工業大学 原子炉研 2号館 6階会議室
出席者 7名

配布資料

- MHN-00-10 中重核評価の進捗状況表 (柴田)
MHN-00-11 Shielding ベンチマークテスト中間結果 (柴田)
MHN-00-12 Ni, Al, Si データの編集 (柴田)
MHN-00-13 V, Co の Covariance Matrix 評価-2 (渡部)
MHN-00-14 W の中性子核データの再評価作業について (浅見)
MHN-00-15 直接過程の非弾性散乱断面積の計算方法 (北沢)

議事

1. 議事録確認

前回議事録の2頁上から2行目の abundance を abundance に修正した後、承認した。

2. 中重核評価の進捗状況について

柴田委員より配布資料 MHN-00-10 に基づき説明があった。Er を除いてデータのファイル化は終了している。残っているのは、一部核種のコメントファイル及び共分散ファイルの作成である。Er については、井頭委員がデータを提出した。今後、柴田委員が Er データのチェックを早急に行う。

3. Shielding ベンチマークテスト中間結果

柴田委員が Shielding ベンチマークテスト WG で行われた解析結果を報告した(MHN-00-11)。JENDL-3.3 を用いた解析結果は JENDL-3.2 に比べ、おおむね改善されていることが分かった。但し、W の(n,n)、(n,2n)断面積及びVの keV 以下の全断面積は再検討を要する。V に関しては、10 keV 以下の全断面積(共鳴パラメータを含む)を ENDF/B-VI のもので置き換えて、測定値との差が全断面積に起因するものであることを確認する必要がある。

4. Ni, Al, Si のデータ編集について

柴田委員より、Ni, Al, Si のデータ編集についての説明(MHN-00-12)があった。Ni では、Ni-61,62,64 で山室委員の計算値を大幅に採用した。Ni-58,60 では(n,n)は JENDL-3.2 のままとし、それ以外の閏反応断面積は山室委員の計算値を採用した。Ni-58,60 の中性子スペクトルは JENDL/F-99 の DDX 形式を採用した。

Al では(n,n)断面積に DWBA 計算値を加算した。(n,2n)反応断面積は山室委員の計算値を採用した。中性子スペクトルは JENDL/F-99 から採用した。

Si では、Si-28 の 6+準位に直接過程成分を ECIS で計算した。Si-29,30 は中性子スペクトル以外は JENDL-3.2 のままとした。中性子スペクトルは全ての同位体で JENDL/F-99 の DDX を採用した。

5. V, Co の共分散評価

渡部委員より進捗状況の説明があった(MHN-00-13)。現在、GMA コードへの入力データを準備中である。一月末には、最初の計算結果を出せる模様である。また、断面積については、Co-59 の全断面積(1.5-5MeV)及び V-51(n,np)断面積を修正する予定である。

6. W データの検討

ベンチマークテストで問題を指摘された W データについて浅見委員から状況報告があった(MHN-00-14)。(n,n')については全て JENDL/F-99 から採用しているが、JENDL/F-99 の天然元素と同位体の(n,n')には矛盾がある。議論の結果、(n,n')及び(n,2n)断面積が妥当かどうか、至急再検討することになった。

7. Si, Al の(n,n')直接過程成分について

北沢委員より Si 及び Al でのチャンネル結合計算について説明があった(MHN-00-15)。最終的には、Si-28 の 6+準位への非弾性散乱断面積を改訂した。

8. 今後の活動について

共分散以外のデータは3月末で最終値とする。共分散については、5月末を目標に整備する。共分散の整備がそれ以降にずれ込んだ場合は、別ファイルとしての公開される可能性もある。いずれにしろ、来年度一年間(最大)の活動期間延長を運営委員会に申し入れることになった。

次回会合

5月15日(火) 東工大原子炉研にて

Action List

1. 評価担当者:コメントファイル及びレポートの作成(至急)。
2. 柴田:Er データのチェック(3月末)
3. 柴田:V 全断面積データを 10 keV 以下で ENDF/B-VI で置き換え、前川氏に再計算を依頼する。(1月末)
4. 浅見:W データの検討及び必要なデータ修正。(2月中旬)
5. 渡部:V 及び Co の断面積データの修正。(2月中旬)
6. 浅見、渡部、山室、井頭、柴田:共分散評価

中重核評価WG

2000年12月1日(金) 13:30~17:30
日本原子力研究所 東海研究所 221号室
出席者 11名

1. 配布資料

- HN00-35a 遅発中性子データの評価について (岡嶋・桜井)
- HN00-35b FCA, MASURCA, TCA の β_{eff} 実験解析に基づく JENDL-3.2 の遅発中性子収率の修正 (桜井)
- HN00-36 U-235, Pu-239 核分裂スペクトル (河野)
- HN00-37 ^{239}Pu vd の共分散 (柴田)
- HN00-38 ^{240}Pu 改訂値の共分散の検討 (村田)
- HN00-39 Validation of JENDL-3.3 by Criticality Benchmark Testing (中川)
- HN00-40 Criticality Uncertainty due to Errors of Resolved Resonance Parameters (瑞慶覧)
- HN00-41 JENDL-3.2 に基づく共分散データの群定数化処理結果について(II) (石川)
- HN00-42 New Evaluations of Heavy Nuclide Data for JENDL-3.3 (河野)

2. 議事

1) 前回議事録確認

前回(平成 12 年 8 月 25 日)の議事録を確認した。

2) 提出資料より

- 遅発中性子 WG の岡嶋・桜井委員より、FCA、MASURCA、TCA の β_{eff} 実験解析に基づいた、 ^{235}U 、 ^{238}U 、 ^{239}Pu のvd の評価結果が報告された(資料 HN00-35a,b)。JENDL-3.3 用に評価された 6 群定数と、Brady-England の遅発中性子スペクトルを用いて、JENDL-3.2 のvd のアジャストメントを行った。その結果 ^{235}U の熱領域でのvd は 1.1%減少し、 ^{239}Pu は 1.7%増加した。 ^{238}U では、3.3%の減少が見られた。このアジャストメントで用いた ^{238}U 、 ^{239}Pu のvd の共分散は一時的に評価したものであるため、これらのデータを早急に準備することとした。なお、 ^{239}Pu のvd の共分散については、Tuttle が評価に用いたデータに基づき GMA コードを用いて評価した結果が、今回の WG の資料として、柴田委員より提出された(資料 HN00-37)。
- 河野委員より、 ^{238}U の核分裂スペクトルの評価方法を用いて、 ^{239}Pu と ^{235}U のスペクトル計算を行った結果が報告された(資料 HN00-36)。核分裂スペクトルは 10, 14, 20 MeV で計算されているが、補間を行う上でもう少しエネルギー点を増やした方がよいというコメントがなされた。
- 村田委員より、 ^{240}Pu のデータの改訂値の共分散の検討結果が示された(資料 HN00-38)。非分離共鳴領域では、共分散を与えることができるパラメータは全領域で 1 セットに限られており、実験値も JENDL-3.2 のものと変りがないので、JENDL-3.2 の共分散を採用したい。非弾性散乱断面積についても実験値は JENDL-3.2 のものと

変りがないので共分散は JENDL-3.2 のものを採用したい。(n,2n), (n,3n)反応断面積の共分散は、Konshin の行った理論計算の誤差を推定することで評価した。以上の方針について、特に異論なく了承された。

- 今年の核データ研究会で高野氏(原研)から報告があった、JENDL-3.3 のベンチマークテストの結果を、中川委員が報告した(資料 HN00-39)。ベンチマーク計算は連続エネルギーモンテカルロコード MVP を用いており、臨界性予測を見る限りは、多くの thermal core, fast neutron core に対し、JENDL-3.3 を用いた計算は良い結果を示すことが報告された。
- 瑞慶覧委員より、分離共鳴パラメータの誤差の k_{eff} への影響を調べた結果が報告された(資料 HN00-40)。 k_{eff} に対する分離共鳴パラメータの感度の解析的な式を求め、全てのパラメータの誤差が k_{eff} の誤差にどのように影響するかを、大型高速炉に対して計算した。
- 石川委員より、JENDL-3.2 共分散ファイルの処理の現状についての報告があった(資料 HN00-41)。前回(8/25)の時点から、共分散データが修正されたため、新しい共分散データに基づいて群定数化処理を行った。 μ の閾エネルギーに対する処理方法を変更したこと、今まで入っていなかった MeV 領域での捕獲断面積の誤差を入れたこと等が報告された。 ^{10}B の誤差と分離共鳴パラメータからの誤差の寄与に関する問題については、現在確認中である。

3) その他の議論

- 来年開催される ND2001 に、JENDL-3.3 重核データ評価の内容を発表する。その要旨の原稿が河野委員より提出された(資料 HN00-42)。内容へのコメントは、原稿目切までに河野委員へ連絡することとした。

3. 次回会合

平成 13 年 3 月 16 日(金) 13:30 ~ 17:30 原研東海研究所

常置グループ

CINDAグループ

1999 年 10 月 31 日 (火) 13:30~16:00 日本原子力研究所 東海研究所 研究 2 棟 222 号室 出席者 6 名

議事

1. エントリー作業

以下の雑誌及びレポートを調査した。

Prog. Theor. Phys.

Vol. 103, No.4 ~ Vol. 104, No. 3

J. Phys. Soc. Japan

Vol. 69, No.4 ~ Vol. 69, No. 9
J. Nucl. Sci. Technol.
Vol. 37, No.5 ~ Vol. 37, No.10
JAERI-Reserach 2000-002

その結果、19件のエントリーを作成した。
(エントリーは11月1日にOECD/NEAデータバ
ンクに送付済)

